

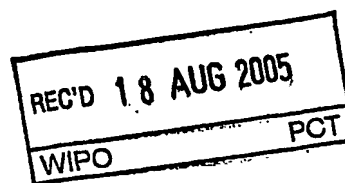
# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

[PCT 36 条及び PCT 規則 70]



出願人又は代理人 の書類記号 PCT-0414	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/013768	国際出願日 (日.月.年) 21.09.2004	優先日 (日.月.年) 22.09.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> C07D211/58, 401/06, 401/14, 401/02, 401/12, 409/12, A61K31/4545, 31/496, 31/454, 31/4523, 31/4535, 31/506, A61P43/00, 3/04, 3/10, 5/00, 3/06, 19/06, 9/10, 9/04, 9/12, 13/12, 25/20,		
出願人 (氏名又は名称) 葛有製菓株式会社		

- この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。  
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
  - ☐ 附属書類は全部で ページである。
    - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
    - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
  - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。  
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☒ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 20.04.2005	国際予備審査報告を作成した日 01.08.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 中木 亜希 電話番号 03-3581-1101 内線 3492	4 P 9282

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

BEST AVAILABLE COPY

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3-15	有
	請求の範囲	1, 2	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	3-10, 13-15	有
	請求の範囲	1, 2, 11, 12	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-15	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

1. WO 02/099388 A2
2. JP 10-324695 A
3. JP 5-78316 A
4. WO 02/076925 A2
5. JP 2001-522836 A

## I. 請求の範囲 1, 2

請求の範囲 1 及び 2 に記載された発明は、文献 1 又は 2 により新規性及び進歩性を有しない。

文献 1 の EXAMPLE 2, 3 に記載の化合物、及び、文献 2 の調製例 219 に記載の化合物は、本願一般式 (I) で表される化合物に包含される。

## II. 請求の範囲 11, 12

請求の範囲 11 及び 12 に記載された発明は、文献 1 より進歩性を有しない。

文献 1 には、Formula I で表される化合物が糖尿病、高脂血症、アルツハイマー病等の疾患に有効であることが記載されていることから (第 21 頁第 1 行～第 24 頁第 21 行を参照。)、Formula I の具体例である EXAMPLE 2 及び 3 の化合物について、上記疾患に対する薬理活性を確認してみると、当業者であれば容易に成し得たことである。

(続き有)

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則 70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
WO 04/037257 A1 [EX]	06. 05. 2004	23. 10. 2003	23. 10. 2002
WO 04/069792 A2 [EX]	19. 08. 2004	02. 02. 2004	03. 02. 2003

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則 70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

## I I I. 請求の範囲 3-10, 13-15

請求の範囲 3-10, 13-15 に記載された発明は、文献 1-5 に対して新規性及び進歩性を有する。

文献 1 及び 2 のいずれにも、本願請求の範囲 3-10 に記載の化合物は記載も示唆もされていない。

文献 3 には、N 原子にフェニル基を有する 4-ピペリジニル-ピペリジン誘導体が記載されているが、本願請求の範囲 3-10 に記載の化合物は記載も示唆もされていない。

文献 4 及び 5 には、ヒスタミン H<sub>3</sub> 受容体に拮抗作用を示す化合物が記載されているが、基本構造が本願化合物とは異なっている。

そして、文献 1-5 の記載を考慮しても、本願請求の範囲 3-10 に記載の化合物に想到することが当業者にとって自明であったとも認められない。

## 国際特許分類 (IPC) の続き

Int. Cl.<sup>7</sup> A61P25/24, 25/22, 25/08, 25/18, 25/28, 25/16, 25/02, 25/32, 25/36